

超精密とメカトロメーションを追求する

Seibu

第78期 株主報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで



西部電機株式会社

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度の東日本大震災により被災されました方々に対して、心よりお見舞い申し上げますとともに被災地が一日も早く復興されることをお祈り申し上げます。

さて、当社グループの第78期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

平成23年6月



取締役社長 木村 稔

商品力と販売力の強化で安定成長を目指します。

当連結会計年度の事業の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、円高やデフレ基調が続く中、アジア向けを中心とした輸出に支えられ、緩やかな回復基調で推移していました。しかしながら、3月11日の東日本大震災の発生によって、一気に不透明感が増してまいりました。

このような情勢の中で、当社グループは2010年度から2012年度までの中期経営計画「SAP12 (Seibu Action Plan for 2012)」を策定し、「商品力の向上」ならびに「販売力の強化」によって安定成長を実現するよう邁進してまいりました。

その結果、当社グループの連結業績は、企業の国内設備投資計画の繰り延べや公共投資の抑制などの影響もありましたが、リーマンショック後の最悪期を脱したこともあり、受注高は131億3千2百万円(前期比 6.5% 増)、売上高は124億8千7百万円(前期比 1.6% 増)となりました。利益面では、コストダウンや経費削減等当社グループを挙げて注力いたし

ました結果、経常利益は、4億9千2百万円(前期比 3.9% 増)、当期純利益は、2億2千4百万円(前期比 15.7% 減)となりました。

なお、東日本大震災におきまして、当社グループへの事業に重大な影響を及ぼす被害はございませんでした。

対処すべき課題

次期のがわが国経済は、未曾有の震災が与える影響が計り知れず、混迷した状況が暫くは続くものと思われれます。当社グループといたしましては、過去に経験したことのない環境下でありましても、「商品力の向上」、「販売力の強化」によって、受注・売上の拡大、更にはコストダウンや経費削減に一層注力し、企業体質の強化と安定成長に邁進いたす所存であります。

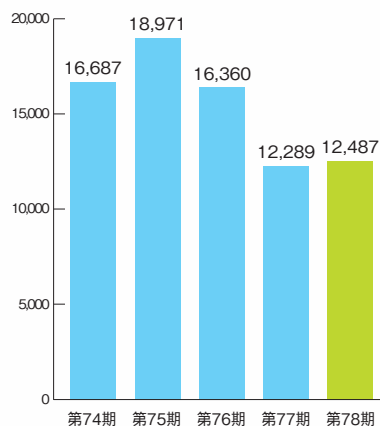
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

科目	第74期 平成18年度	第75期 平成19年度	第76期 平成20年度	第77期 平成21年度	第78期 平成22年度 (当連結会計年度)
売上高 (百万円)	16,687	18,971	16,360	12,289	12,487
経常利益 (百万円)	1,188	1,793	904	473	492
当期純利益 (百万円)	2,480	880	449	266	224
1株当たり当期純利益	177円57銭	62円58銭	31円92銭	18円96銭	15円98銭
総資産 (百万円)	27,256	26,388	24,286	22,931	22,982
純資産 (百万円)	13,963	13,983	13,652	14,708	14,292
1株当たり純資産額	998円73銭	990円48銭	971円27銭	1,046円65銭	1,017円23銭

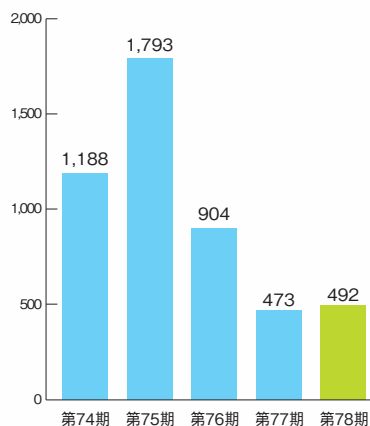
売上高

(単位:百万円)



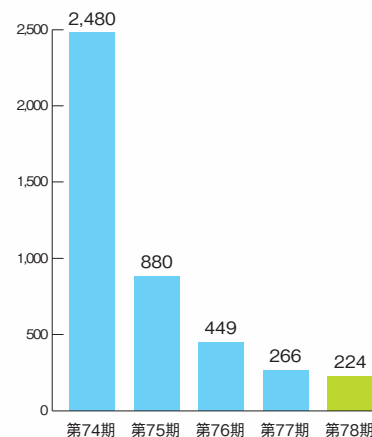
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



(注) 第74期は、土地の売却益なども加わり、最高益を確保することができました。

主要な事業別営業の概況

搬送機械事業

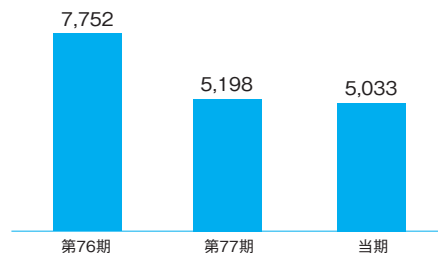
搬送機械事業では、既存顧客からのリピート受注、小型自動倉庫や製造業の生産・物流分野などに、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。

しかしながら、円高などから顧客の投資マインドに陰りがみえ、国内の設備投資計画の延期や納期のズレが生じるなど、厳しい状況が続きました。

その結果、受注高は53億3千3百万円（前期比 1.9%増）、売上高は50億3千3百万円（前期比 3.2%減）となりました。

売上高

(百万円)



売上高

5,033百万円 前期比3.2%減

40.3%

FAシステム



食品仕分けシステム (RIOシステム)



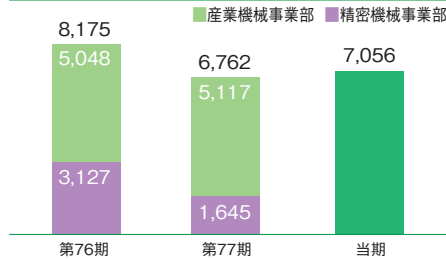
主要商品

- 立体自動倉庫
- ケース自動ピッキングシステム
- ピースピッキングシステム
- FAシステム
- 搬送・ハンドリングシステム

産業機械事業

売上高

(百万円)



(注) 当社は平成22年4月1日付をもちまして、産業機械事業部と精密機械事業部を統合し、「産業機械事業部」とする組織の変更を行っております。

産業機械事業の産機部門では、公共投資の抑制や事業仕分けの影響を受けるなど厳しい環境の中、民間需要の掘り起こしや既存市場におけるシェアアップ、更にはサービス・メンテナンスに注力してまいりました。

また、精密機械部門では、円高の逆風はありましたものの、既存顧客の更新需要や新規商社の開拓に注力するとともに、半導体やデジタル家電、光学、自動車市場などに拡販を図ってまいりました。

その結果、受注高は73億9千6百万円(前期比 8.6%増)、売上高は70億5千6百万円(前期比 4.3%増)となりました。

56.5%

売上高

7,056百万円 前期比4.3%増

主要商品

産機部門

バルブアクチュエータ
ゲート駆動装置

精密機械部門

超精密・高精度ワイヤ放電加工機
高精度小形NC旋盤
高精度自由形状研削加工機

バルブアクチュエータ・プラント採用事例



ハイエンドタイプ SuperMM50A



Semflex®-LPシリーズ 採用事例



ハイスピードローダ 連結ライン



Topics

平成22年
10月

JIMTOF 2010 第25回 日本国際工作機械見本市

「モノづくり 未来を創る 夢づくり」をテーマに開催されたJIMTOF2010に精密機械部門は「高精密」「超精密」をコンセプトに業界唯一の大型高精密加工機「MM75A」と超精密加工機「Super MM50A」を出展いたしました。

「MM75A」は720mmストロークのピッチ加工で業界最高の $\pm 2\mu\text{m}$ の加工精度を、また「Super MM50A」は500mmストロークマシンでピッチ精度、形状精度共、 $\pm 1\mu\text{m}$ の加工精度を実現し、来場者の高い評価をいただいております。



会 期	平成22年10月28日(木)～11月2日(火)
会 場	東京ビッグサイト(東京国際展示場)



平成22年
11月

「Semflex®-A」シリーズ Valve WORLD (デュッセルドルフ) 出展

世界最大のバルブ・配管の展示会「Valve WORLD (デュッセルドルフ)」に新商品「Semflex®-A」シリーズを出展いたしました。

産機部門初の海外展示会への出展となりましたが世界最小・最軽量のSemflex®-Aの反響は高く海外エンジニアリング会社や電力・石油・化学会社などエンドユーザーから引き合いをいただき西部電機の海外知名度をアップすることができました。

会 期	平成22年11月30日(火)～12月2日(木)
会 場	メッセ・デュッセルドルフ(ドイツ)

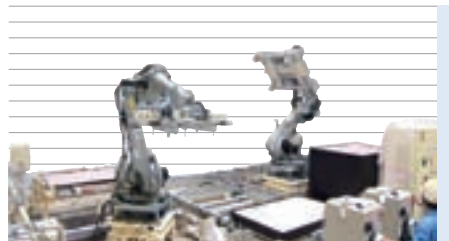
New Product

マテハン事業

NEW

大型パネル梱包ラインシステム

多段積みされたパレットに納めてある、薄状パネルをロボットで取り出し、決められた梱包材に、ミリ単位の精度で、移載していくシステムです。空になったパレットも、別ロボットで回収し、連続動作を実現しています。開発コンセプトである異品種対応、迅速、安全、確実が達成でき、薄状パネル梱包ラインの大幅な生産効率UPに貢献しています。



産業機械事業
産機部門

NEW

「Semflex®-A」シリーズ (インテリジェント型バルブアクチュエータ) のラインアップ化を行いました。

世界最新鋭のインテリジェント型バルブアクチュエータ(世界最小・最軽量・速度コントロール・各種プログラミング可能)「Semflex®-A」シリーズをA-50・A-100に加え、A-200・A-400・A-700・A-1000を開発。ラインアップの拡充により、幅広い顧客ニーズに対応できるようになりました。



産業機械事業
精密機械部門

NEW



ワイヤ放電加工「MAシリーズ」で 新技術を開発しました。 コアステッチ機能(Core stitch Function)

従来は、プレート加工を行う工程の中で、切り残しておいた中子(Core)を再び放電加工により、一つ一つ切り離す工程が必要でした。今回の新機能「コアステッチ機能」を使用すると、任意の場所で中子を溶着することができるため、切り離し加工を行う必要が無く荒加工後の中子処理を叩き落とすのみで実現できます。その為、切り離し工程にかかる時間を大幅に短縮(97%削減)することができます。

この機能は業界初であり、ワイヤ放電加工の工程を激変させる画期的な商品です。(特許、商標出願中)

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期末 平成23年3月31日	前期末 平成22年3月31日
資産の部		
流動資産	11,553	10,756
現金及び預金	3,701	3,689
受取手形及び売掛金	6,033	5,328
仕掛品	783	801
原材料及び貯蔵品	772	669
繰延税金資産	194	208
その他	87	76
貸倒引当金	△ 17	△ 17
固定資産	11,428	12,174
有形固定資産	8,552	8,762
建物及び構築物	2,913	3,056
機械装置及び運搬具	429	512
土地	5,115	5,115
その他	95	78
無形固定資産	21	21
投資その他の資産	2,854	3,390
投資有価証券	2,011	2,854
長期貸付金	30	41
繰延税金資産	415	85
投資不動産	19	19
その他	407	443
貸倒引当金	△ 30	△ 54
資産合計	22,982	22,931

科目	当期末 平成23年3月31日	前期末 平成22年3月31日
負債の部		
流動負債	4,940	4,520
支払手形及び買掛金	3,185	2,665
短期借入金	620	620
未払費用	794	813
未払法人税等	203	184
役員賞与引当金	12	10
受注損失引当金	12	—
その他	111	226
固定負債	3,749	3,701
長期借入金	336	336
長期未払金	60	100
再評価に係る繰延税金負債	1,989	1,989
退職給付引当金	1,146	1,110
役員退職慰労引当金	169	163
その他	46	1
負債合計	8,689	8,222
純資産の部		
株主資本	10,814	10,699
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,502
利益剰余金	5,944	5,828
自己株式	△ 291	△ 290
その他の包括利益累計額	3,478	4,009
その他有価証券評価差額金	577	1,108
土地再評価差額金	2,901	2,901
純資産合計	14,292	14,708
負債純資産合計	22,982	22,931

連結損益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	12,487	12,289
売上原価	9,465	9,360
売上総利益	3,021	2,929
販売費及び一般管理費	2,594	2,584
営業利益	427	344
営業外収益	84	152
営業外費用	19	23
経常利益	492	473
特別利益	2	4
特別損失	41	15
税金等調整前当期純利益	453	463
法人税、住民税及び事業税	231	206
法人税等調整額	△ 2	△ 9
少数株主損益調整前当期純利益	224	—
当期純利益	224	266

連結包括利益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
少数株主損益調整前当期純利益	224	—
その他の包括利益	△ 530	—
包括利益	△ 306	—

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	192	773
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 116	68
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 113	△ 106
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 38	736
現金及び現金同等物の期首残高	3,629	2,892
現金及び現金同等物の期末残高	3,591	3,629

連結株主資本等変動計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益 累計額合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成22年3月31日残高	2,658	2,502	5,828	△ 290	10,699	4,009	14,708
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 108		△ 108		△ 108
当期純利益			224		224		224
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 530	△ 530
連結会計年度中の変動額合計	—	—	115	△ 0	114	△ 530	△ 416
平成23年3月31日残高	2,658	2,502	5,944	△ 291	10,814	3,478	14,292

単体財務諸表(要約)

貸借対照表

単位:百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	当期末	前期末
	平成23年3月31日	平成22年3月31日
資産の部		
流動資産	10,841	10,097
固定資産	11,480	12,230
有形固定資産	8,597	8,812
無形固定資産	19	19
投資その他の資産	2,864	3,397
資産合計	22,322	22,328
負債の部		
流動負債	4,730	4,348
固定負債	3,718	3,673
負債合計	8,448	8,022
純資産の部		
株主資本	10,397	10,298
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,502
利益剰余金	5,527	5,427
自己株式	△ 291	△ 290
評価・換算差額等	3,476	4,007
純資産合計	13,873	14,305
負債純資産合計	22,322	22,328

損益計算書

単位:百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	当期	前期
	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	11,805	11,512
売上原価	9,013	8,845
売上総利益	2,792	2,666
販売費及び一般管理費	2,412	2,420
営業利益	380	246
営業外収益	88	161
営業外費用	19	23
経常利益	449	384
特別利益	1	3
特別損失	41	15
税引前当期純利益	408	373
法人税、住民税及び事業税	202	179
法人税等調整額	△ 2	△ 10
当期純利益	208	204

株主資本等変動計算書

単位:百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	株主資本					評価・換算 差額等合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成22年3月31日残高	2,658	2,502	5,427	△ 290	10,298	4,007	14,305
当期変動額							
剰余金の配当			△ 108		△ 108		△ 108
当期純利益			208		208		208
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
別途積立金への積立			—		—		—
その他利益剰余金の取崩			—		—		—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△ 531	△ 531
当期変動額合計	—	—	99	△ 0	99	△ 531	△ 432
平成23年3月31日残高	2,658	2,502	5,527	△ 291	10,397	3,476	13,873

会社の概況・株式の状況 (平成23年3月31日現在)

会社の概況

商号	西部電機株式会社
英訳名	Seibu Electric & Machinery Co.,Ltd.
本店所在地	福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
設立	昭和14年2月1日
資本金	26億5,840万円
従業員数	402名(連結440名)

役員 (平成23年6月29日現在)

取締役会長 (代表取締役)	吉住一成
取締役社長 (代表取締役)	木村 皚
専務取締役	宮地 敬四郎
常務取締役	藤岡 敬正
取締役	木谷 泰博
取締役	中里 晋也
取締役	税所 幸一
取締役	溝田 安彦
常勤監査役	平塚 皓
監査役	小西 正純
監査役	鬼頭 正雄

(注) 監査役小西正純、鬼頭正雄の両氏は社外監査役であります。

株式の状況

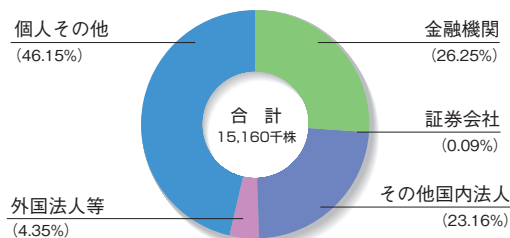
発行可能株式総数	32,980,000株
発行済株式の総数	15,160,000株
株主数	1,583名

大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社安川電機	2,630千株	18.71%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,039千株	7.39%
株式会社三菱東京UFJ銀行	650千株	4.63%
株式会社福岡銀行	633千株	4.50%
みずほ信託銀行株式会社	626千株	4.45%
株式会社西日本シティ銀行	589千株	4.19%
CGML-IPB CUSTOMER COLLATERAL ACCOUNT	521千株	3.70%
西部電機従業員持株会	377千株	2.68%
村上 博	215千株	1.53%
日本生命保険相互会社	152千株	1.08%

- (注) 1. 当社は、自己株式1,109,301株を保有していますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式(1,109,301株)を控除して計算しております。
3. シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社から平成23年5月11日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成23年4月28日現在同社が1,577,000株(保有割合10.40%)を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として当事業年度末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

所有者別分布状況



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
剰余金の配当	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.seibudenki.co.jp/) に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 および特別口座管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問合せ先 〔郵便物送付先〕 〔電話問合せ先〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

ホームページのご案内

<http://www.seibudenki.co.jp/>

または、

西部電機

検索



表紙の絵は、本社玄関フロアに展示されている陶版画で、奥入瀬渓流の四季をモチーフに『自然随順』を表現しております。当社が「我々のロマン」として掲げるスローガン「我々は技術の本質を謙虚に探索し自然随順に即した応用で広く世界に貢献しよう」は、好不況にかかわらず、ロマンを胸に、機械文明と自然が共存し得るとの信念で謙虚さと誇りをもって商品を作り、広く世界に貢献することを宣誓しています。



この報告書は植物油インクを使用しております